

# ウイルス性肝炎について

## ウイルス性肝炎とは？

ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルスに感染して肝臓の細胞が壊れていく病気です。この病気になると、徐々に肝臓の機能が失われていき、ついには肝硬変や肝がんに至ることもあります。B型及びC型肝炎ウイルスの患者・感染者は合わせて300万人を超していると推定され、国内最大の感染症と言われています。

## 肝臓は”沈黙の臓器”

肝炎になっても、肝臓はなかなかSOSを出しません。「体がだるい」と気付くころには、かなりの重症になってしまっています。でも大丈夫。肝炎ウイルスは、検査で分かります！肝炎ウイルスに感染していても、適切な健康管理・治療で、肝炎から肝硬変や肝がんが悪化するのを予防することが可能です。  
※肝炎のほとんどは、肝炎ウイルスによって起こる「ウイルス性肝炎」です。

## ウイルス性肝炎 Q & A



### Q1 検査を受けるには？

【どんな検査？】

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、採血検査で判断します。短時間で済み、また、数週間で検査結果をお知らせできます。※感染後は3ヶ月ほどたないと、陽性にならないこともあります。

【どこで受けられるの？】

検査を受診する機会は、以下のようなものがあります。

- お住まいの市町村での地域検診
- お住まいの都道府県等の保健所での検診

※実施日程や費用などは、それぞれの実施主体によって異なりますので、別途お問い合わせください。



### Q2 感染が分かったら？

肝炎ウイルスに感染していたとして、肝臓の状態は人によってまちまちです。まずは、専門医に相談してみましょう。

【主な治療方法(インターフェロン治療)について】

- インターフェロンは、免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤で、肝炎ウイルスの増殖を抑える効果を発揮します。
  - B型肝炎の場合は約3割、C型肝炎の場合は約5～9割の人が治療効果を期待できます。
- ※治療効果は、遺伝子型、ウイルス量などによって異なります。



### Q3 インターフェロン治療に対する医療費助成制度とは？

国と都道府県では、肝炎の有力な治療法であるインターフェロン治療について、あなたの負担額を軽減する助成を行っています。助成の対象となるのはB型又はC型肝炎のインターフェロン治療です。あなたの世帯の所得に応じて、月当たりの医療費を軽減します。詳しくはお近くの保健所にお問い合わせ下さい。

インターフェロン治療薬の副作用による健康被害については医薬品副作用被害救済制度の対象となりうる場合があります

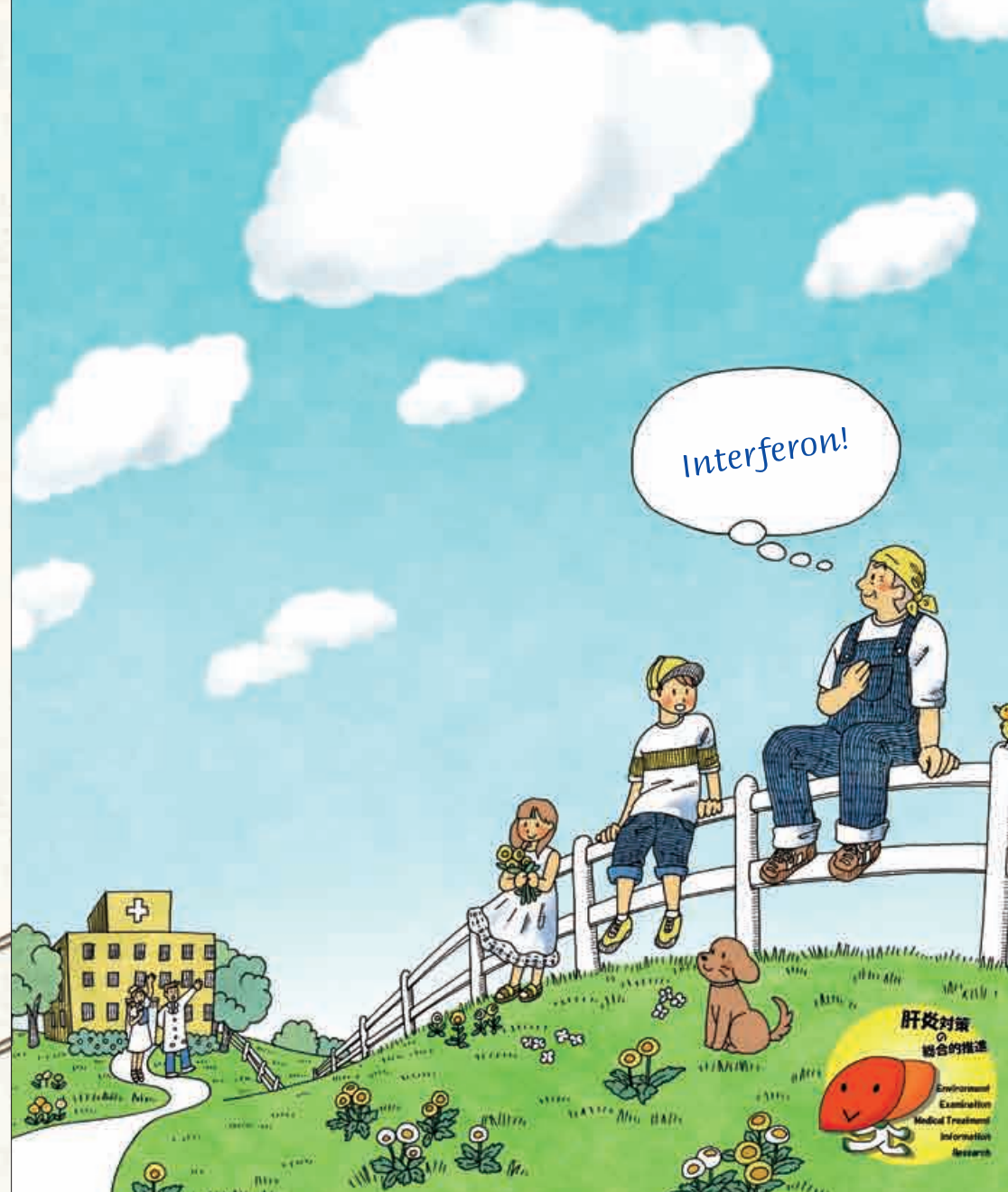
厚生労働省健康局疾病対策課 肝炎対策推進室  
TEL: 03-5253-1111 (月～金曜日/9時半～18時)  
URL: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou09/index.html>

ウイルス肝炎研究財団(病気の相談)  
TEL: 03-5689-8202 (月～金曜日/10時～16時)  
URL: <http://www.vhfj.or.jp/08.consul/index.html>  
Mail: [vhfj@jeans.ocn.ne.jp](mailto:vhfj@jeans.ocn.ne.jp)

独立行政法人医薬品医療機器総合機構  
救済制度相談窓口  
TEL: 0120-149-931  
URL: <http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai/ldp.html>

# 肝炎のお話 vol.1

## わたしのインターフェロン治療体験



## 家族の理解と協力によって 成し遂げられた治療



(40代・女性・主婦)

私は2007年～2009年1月まで、インターフェロン治療をしていました。当初の予定は、48週治療だったのですが私の場合ウィルスが消えるのが少し遅かったので、72週に延長することに決めました。

家族の負担、金銭面でこれ以上迷惑はかけられないと思い悩み、何度も家族会議をしました。子どもたちも家事などを手伝ってくると、主人も「治せる確率があがるなら治療を続けたほうがいい。」と背中を押してくれました。

副作用に関しては、背中筋痛のような痛みが絶えず、痛み止めを服用しながら家事をこなし、だるい時は、横になり体を休めて

いました。頻尿の為夜中のトイレは、つらかったですね。必ず1回から2回起きてしまうので、睡眠不足になり昼夜逆転現象を起こしてしまいました。

週1回の通院は、体調が特に悪い時も必ずその日にいかななくてはならないので、とてもつらかったのですが、絶対に治すぞという気持ちで通院していました。

また、薬も長く服用していると、飲み忘れてしまいそうになったことが何度かあったので、カレンダーに印をつけ薬を小分けにして、目のとどく所におきパッケージは次の薬を飲むまで捨てずにとっておくことで、飲み忘れないように工夫していました。

今は月1回のウィルス検査をおこなっていますが、現在ウィルスは未検出です。長い治療ができたのは、家族の理解と協力があり出来たことだと思います。感謝しています。

一人でも多くのC型肝炎の方が治るように、心からお祈り申し上げます。

## 思い切って治療を受けたから いまの自分がある



(60代・男性・無職)

私は数年前、他の病気で入院中、血液検査で肝臓が悪いと言われ約3ヶ月間、同時に治療を始めましたが、完治はしませんでした。

退院後、肝機能の数値は一定せず不安な毎日を送っていました。平成9年頃かかりつけ医からインターフェロンの治療を勧められ1ヶ月入院治療しましたが、完治しませんでした。

平成20年5月頃から、肝機能の数値が上がり始めインターフェロンの治療ができるギリギリの状態と言われ、肝炎治療の基幹病院を紹介され再度治療開始しました。最初に2週間の入院、退院後は地元の医療機関を紹介され、その病院には月1回の

ペースで1年間通院しました。

副作用として注射後38℃以上の高熱と悪寒、網膜症による眼底出血、体上半身に強い薬疹が出て皮膚科の治療も受けました。この他に息切れ、味覚障害、手足のしびれ、脱毛、口内炎等医師からは副作用の強い方だと言われました。

強い副作用に何度か治療を中止しようかと思いましたが、現在、ウィルス陰性化になり経過観察期間に入っています。

思い切って治療を受けて良かったと思っています。

